



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1934, 21(4): 317-320

ISSUE DATE:

1934-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184275>

RIGHT:

者に感謝をさしける。(藤田)

○朝鮮

鮮

緬羊及緬羊事業特輯號 昭和九年二月發行 定價三十錢

雜誌朝鮮の二月號を全く緬羊號にしたものである、鎌田清一郎氏は、羊毛の國産自給を以て目下の急務なりと信じ、宇垣總督の南棉北羊といふ標語よりも更にすゝんで日本に於ける緬羊の發展を企て東北に於ける現況からホームスパンの實際は勿論、北鮮及東北に於ける緬羊飼育の好成績實例をのべて、飼育方法、農村副業としての經營方法からその生産物の處理等二十五節にわたつて詳密に論述された、近頃特筆すべき著述である。菊版二八八頁の大冊で、文章の明快なのが何よりである。朝鮮印刷株式會社(京城蓬萊町三ノ六二)へ直接かけ合つてこの冊子一部だけでも買つて讀まれることをすゝめたい。(藤田)

雜報

○印度の大地震

一月十五日(月)午後二時四十分印度のビハール地方よりネパール國東南部に大地震が起り非常な被害を起した事は既に新聞紙に報ぜられた處である。

此の地震による被害はカルカッタでは甚だしく、大建築造、大寺院等に龜裂が少々入つた程である。然るにビハール州に

於ける損害は死者六千を超え、人口一萬乃至六萬の都會十二箇以上が全く破壊された。其の被害の最も大なる部分は此の州の北部地方にして例へばダルバンガ(人口六萬)、ムザツアアルプール(人口四萬三千)、モチハリ(人口一萬八千)等が代表的のものである。然し同州の首府なるガンデス河畔のパントナでは被害は遙かに少く死者五〇、負傷者數百、倒壊四千との事である。

此の度の地震で被害の人民の死傷に次いで大なるものは農作物に對するもので、其の主要農作物たる甘蔗の損害最も甚しく二十萬エーカーが無收穫に陥つた。此の外間接の打撃として飲料水供給が十分出來なくなつた爲め、今後起るべき傳染病の流行が將來の被害として特に怖れられてゐる。

ネパールに於ける損害も頗る甚しく首府カトマンヅ市に於いて家屋の五分の一が全壊した程で、其のビハール北部と國境を接する地方は之より甚しい損害を受けたものと思はれる。

餘震は翌日午前パントナにて感ぜられ、又た二月十二日にもカルカッタから報ぜられてゐる。

英國にては政府が之が救濟手段は講ずるは勿論、皇帝よりも御下賜金あり、又たゼネバの萬國赤十字社本部よりも見舞金を送られた由である。

○高級林業の提唱

本多林學博士の提唱さるゝ高級林業とは、我國地積の六割に達する山林に於てトチ・クヌギ・ナ

ラ・カシ類穀樹の改良をはかるべしといふことであつて、英國産胡桃と加州産胡桃とを混花交配してバラドックスといふ新品種をつくつた例や、同じローヤル品種をつくつたこと、洋李を巴杏に接木して成功したこと、種子のない葡萄、刺のないシヤボテンが出来たこと、もしくは日本栗を米國栗に接木して大改良を加へたといふバーバング氏の林業を見ならひ、日本でも猶多くの穀樹の改良をはかるといふ論である。そこでまづ改良すべき樹種は左の如くであるとのべてある。

一、栗 これを丹波栗よりも更らに改良したい、枒、枒及橘類から出るドングリも改良して澱粉を多くするやうにする接木法とか異花受粉をやるのである。

二、胡桃 日本のクルミは核が堅すぎる、鬼クルミとテウチクルミとの合の子をつくる事。

三、イテフ 一樹數斗乃至數石の銀杏がでる、これを森林仕立につくつて收穫をはかる事。

四、榧の木 これも油の原料とする。

五、朝鮮松の實は徑四、五分で朝鮮で三千石の年産がある、岩手縣には栽植ができた、北海道でもつくりたい。

六、サイカチ・ネム・エンジュ・キサ・ゲ・フデ等の豆は飼料になる、人間にも食へるから改良したい。

七、山桑 桑材として唐木につぐ、其實も食用となる。

八、ヤマモ、の實もくへるから品種改良。

九、ハシバミ類も歐米の良種を輸入して改良したい。

一〇、チャンチン香椿は支那から朝鮮及内地に栽えられたが良材であると同時に其若芽がくへる、新芽は漬物に供する、上海邊では中刈の桑畑同様につくつてゐる。

一一、チシヤの木・クコ・ウコギ・タラノキ・ハリギリの新芽は食用であり、藥用となる。

一二、山櫻は良材であるが、日本のものは果が小さい。之を改良してチエリー桃の如くにする事、ヤマナシ・サンザシ及ヤマボウシ・グミ等いづれも改良品種を作る事。

一三、ブナも亦改良して穀樹にされる。

一四、我國のイタヤカヘデを改良して砂糖楓としたい。

一五、桑林の研究を企て、安價な山桑仕立にしたい、さうして室外條桑飼育として、人絹に競争したい。

其他まだあるが、熱帯林業の方が日本内地の林業よりも遙に進歩してゐる、日本でも一つ大に研究してあらゆる山林を單に松杉櫟の造林にかへることをしないで、高級な林業を施すことにすべきである。

○樺太の森林

日本領になる以前は海濱漁場、小都市、村落等の附近、山火事跡等が無立木地で其他はすべて原始林であつたが、其後段々に伐採され、大正五年頃からはパルプ會社が出来、大正八年に松毛蟲が發生し、山火事が各所に出来て、現在、眞縫久春内以南の林地の大部は殆ど優良な美林を失つた、しかし本島の北部數香、惠須取、元泊、各林務署

管内の北部地方は尙多大の森林を有してゐる、この樺太の森林は大別して南部森林と北部森林にわかち、南部はトマ松七分、エゾ松三分又はトマ八分、エゾ二分の混合林であるが、北部は全くこの反對である、そこでトママツを主とするトマ、エゾ混合林は樺太南部をしめ、エゾマツを主とするトマ、エゾ混合林は北半をしめてゐるが、かやうに變遷する原因は北部の大幹であるエゾ松が枯れるとか又は切られると、その木の下にあるエゾ松が首を出すからである、故に南部系は、北部系の次の時代を語るものであるから、北部森林も、いつかは南部森林と同様にかはつてゆくらしい。即北部といへども、エゾマツがトママツよりも數が多いのでなくて、數は同じくあるが大形木としてエゾが盛んである故に、北部はエゾ松林といふ外形をしめす、南部の方ではトママツが大形となつてゐるのでトママツ林といふが、其老衰した大木の下には更新のトママツがのびてゐるやうになつてゐる、そこで天然更新としては北部の方は大形のエゾマツが減ずるにつれて、下崩のトママツが上にで、トママツ林といふものになる筈である、幸にカラフトは高緯度であつて夏期の日照時間が長いから植物の生長もよい、濕氣も多いので大陸内部などよりも遙に生長率が強い、又林地に有害な莖莖やサ、が少いので、この天然更新の下崩をつぶさぬやうに善守すれば樺太林程天恵のある國は他にないといふことである。

○咸北の三港

敦岡鐵道線の完成と共に其終端驛たる雄

基、羅津、清津の三港は日本海上の巨港として俄然一世の耳目を聳立せしむるに至つた、第一清津は三十七八年戰役までは戸數僅に百餘の荒涼たる一漁村であつたが、我北韓軍がこゝを上陸地點としてから盛になり四十四年開港、清津鐵道開通の後今や人口三萬六千、内地人八千四百を算する新開港となつた、五臺山脈の先端半島で北から東にかけて山を負ひ高抹半島東に突出して灣形をなすので、その麓の海岸平地がせまい、大正十五年以來築港計劃ができ、昭和九年に竣成、防波堤六〇〇米、港内面積一〇・〇〇〇坪である、敦岡南線の終端港として將來は囑目されてゐる、第二雄基港は圖們江口を去る十二浬、三國の境界に立ち北鮮の不凍港として有名であるが日露戰後新潟縣民漁業の根據地となつてから發展し、大正十年六月貿易港となつた、水上面積三五〇萬坪、大正十五年以後築港計劃で昭和五年完成した、しかしこゝは初夏の候濃霧多く冬季に四十米の颶風がふく、海岸線も短い、人口一萬六千、内地人二千人程度である、第三羅津は雄基から南方陸路四里、海路十六浬である、日露戰役には上村艦隊がこゝに入つた、全鮮第一の良港である、南に海をうけ東西北の三面山で圍まれ、南方灣口に大小の二草島がある、面積九五〇萬坪、干満の差二尺、七八千噸の船は岸壁に自由に横付にされる、一時四十七隻の大艦隊が入つた歴史さへある、滿鐵の調査によると、

一、清津は背後鐵道の距離大にして、輸送能力に制限がある。

二、雄基は風浪はげしく築港をしても最大吞吐力は六〇〇萬噸である。

三、羅津及び雄基は港灣の素質が良い鐵道距離も短いから採算上有利である。

四、こゝで清津の完成をいそぎ、雄基の設備を利用して羅津との優劣を比較してもよいが、羅津は水陸共に面積大、風浪遮蔽せられ、港灣として申分がない。

五、そこで羅津への敦圖北線をつけそれを幹線とすべきである。

といふ報告があつたので昭和七年五月、羅津が終端驛ときまつたから經費三六、八三三、六九〇圓で築港を進めることになり今や北鮮第一の港灣となり、大連や浦鹽と角逐して其雄を争はんとする將來をもつに至つた、もしこゝが盛大になれば浦鹽の勢をそぐことは勿論であつて、四五年さきの日本海は全く従前の眠から目を醒ますであらうと考へられる。

○メキシコの咀嚼用ゴム

はチクレといふチーコ・サボテといふ樹の皮を切開して流出する乳液よりとるものである。この樹木はユカタン半島の石灰質の土壤に適し特有の小森林をなしてゐる、その主産地は、キンタナ・ロー、カムペチエ、ユカタン州南部及ヴェラクルズ北部でこの木は最大直

徑四十乃至五十浬、高さは通常四五尺の灌木である、葉は平潤で暗緑色であり盆栽の形に似る、その材は帯紅色で、地方の家屋に用ひ、古代のマヤ寺院では本樹の梁が用ひてあつた。樹液の採取は普通十月より三月までの雨期で四五人の土民が一組となつて採取中は野營をする、適當な木に試験的の切込をなし、良好なれば木の下方にゴム袋をつけ鋸齒形に刻目をいれる、すると二十四時間乃至三十時間流れて止まる、一度切開したら四五年をへて快復する迄は再採取は出来ない、かうしてとつた液を釜で煮沸してかためて九疋乃至十疋の塊にする、濕度三割を超ゆることが出来ない、かうして出來たチクレゴム十三封度から五千箇のチューイングガムがつくれるチクレは殆ど其輸出先は米國である、米國の四大會社はチューイングガムの九割五分を産出する、さうしてこの菓子工業は米國の特有で、全額の九割七分五厘までは國內消費に供し、残りを英國、日本、ヒリッピン、佛國等に輸出する、その生産額は一九三一年度に於て四千七百萬弗の多きに上つた。但しチクレの外に他のゴムを混合してチューイングガムの料にするものもあるけれども、今日までの所チクレがやはりその主位をしめてゐるので、他の品は之に對抗が出來ないといふことである。